

令和元年6月17日現在

機関番号：32649

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26380478

研究課題名(和文) 経営情報システム学の国際比較

研究課題名(英文) International comparison of information systems research

研究代表者

佐藤 修(sato, osam)

東京経済大学・経営学部・教授

研究者番号：50170725

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：国内外における経営情報関連学会の研究動向について文献調査を行い、夫々を国内外で紹介することで、国内外の研究者に研究の動向を示しました。具体的には、この分野の最高峰であるMIS Quarterly(MISQ)誌の他、AISが認定する同誌を含む主要8誌及びDecision Sciences Institute (DSI)が発刊するDecision Sciences誌とDecision Sciences Journal of Innovative Education誌、国内学会では日本情報経営学会誌と経営情報学会誌について参照分析を行い、夫々の類似性と違い・特徴を見出しました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

経営情報システム学は海外ではAssociation for Information Systems (AIS)を中心に確立した学問領域となっています。国内でも日本情報経営学会や一般社団法人経営情報学会を中心にこの分野に多数の研究者がいます。しかし国内では海外の研究成果が殆ど紹介されません。このため海外の研究成果と国内の研究成果はかなり異なります。即ちガラパゴス化が起っています。日本の学会の国際化を推進するためには、この問題を解消する必要があります。本プロジェクトは国内外の研究の類似性と違いを明らかにすることで、この問題の解消に貢献します。

研究成果の概要(英文)：The research goal of this project is to show research trend, similarity and difference between international and domestic studies in Information Systems (IS) domain as well as differences among recent publications of following academic societies with citation analysis, keyword analysis and affiliation analysis. I studied academic publications and conference presentations both in international and domestic societies. Famous 8 journals (Sens-8) in Association for Information Systems (AIS), including MIS Quarterly (MISQ), the flagship journal of IS domain, and two journals that are published from Decision Sciences Institute (DSI) are studied internationally. International conferences such as Americas Conference on Information Systems (AMCIS) and its Special Interest Groups (SIG) are also studied. Journals from both Japan Society for Information and Management (JSIM) and Japan society of Management Information (JASMIN) are studied and compared as domestic societies.

研究分野：情報システム

キーワード：情報システム 経営情報システム 国際比較 参照分析 文献研究 キーワード分析

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 経営情報システム学は国内では経営情報システム学(論)、経営情報学(論)、又は情報システム学(論)と呼ばれています。この学問分野が米国で1980年頃発生した時には Management Information Systems (MIS)と呼ばれていました。しかし今日では単に、Information Systems (IS)と呼ばれます。海外では Association for Information Systems (AIS)及び関連学会を中心に、Decision Sciences Institute (DSI)等でも確立した学問領域として研究されています。国内でも上記の名前で、特に日本情報経営学会や一般社団法人経営情報学会を中心にこの分野に多数の研究者がいます。しかし国内では海外の研究成果が殆ど紹介されません。このため海外の研究内容・成果と国内の研究内容・成果はかなり異なります。

(2) 経営情報システム学は計算機科学(Computer Sciences: CS)と経営工学(Management Sciences: MS)の融合領域から発生し、組織科学(Organization Sciences: OS)分野の成果を取込むことで独立の学問分野としての位置を築きました。このため海外では創立当初から、学問分野のアイデンティティについての議論が盛んに行われました。この議論の基礎(根拠)として、海外のIS学分野では、研究動向の参照分析が多数の研究者によって行われています。

(3) しかし国内では、申請者の他には類似の研究を継続的に行っている研究者はおりません。申請者は本プロジェクト採択以前から、本テーマについて継続的に研究を行い、下記のような成果発表を行っておりました。

佐藤修、日本の情報システム学研究-学会誌の参照分析-、東京経済学会誌-経営学-、2011、272巻 pp.47-58.

佐藤修、日本の情報システム学雑誌比較 国際比較も加えた参照分析の試み、東京経済学会誌-経営学-、276巻、pp.35-44.

2. 研究の目的

(1) 本研究プロジェクトは、海外の関連学会のIS学術誌に発表される学術文献および学会大会で発表される予稿集等を調査し、国内の上記学会においても同様に研究動向の文献調査を行ってこれらと比較し、夫々の動向・傾向・特徴を分析して結果を紹介することで、国内外の研究者に国内外の各学会の研究動向及び各学会間の類似性と違い・特徴等を示すことを目的としていました。

(2) IS学関連では多数の学術雑誌が発刊されています。それらには夫々特徴があり、海外ではこれらについての研究が発表されています。しかし国内の上記学会誌も含めた比較については研究が殆どありませんので、これを明らかにすることも目的の一つでした。

3. 研究の方法

(1) 具体的な研究方法としては計量図書学的(Bibliometric)方法、特に参照分析(citation analysis, cross-citation analysis, cross-reference analysis)を主に、所属分析、キーワード分析も適用して、研究を進めました。

4. 研究成果

(1) 本研究プロジェクトでは、この分野の最高峰である MIS Quarterly(MISQ)誌の他、AISが認定する同誌を含む主要8誌(Sens-8)及び Decision Sciences Institute (DSI)が発刊する Decision Sciences 誌(学会発表、)と Decision Sciences Journal of Innovative Education 誌(雑誌論文)について参照分析・キーワード分析・所属分析を行いました。国内学会誌についても同様に、日本情報経営学会誌と経営情報学会誌について参照分析を行い、夫々の類似性と違い・特徴を見出しました。研究対象となる学術誌は多数ありますが、特に本プロジェクトでは、国際論文についてはAISの基幹学術誌である Journal of AIS (JAIS)掲載の論文について、集中的に研究をしました(雑誌論文、学会発表、)。国内論文については日本情報経営学会誌を中心に研究を行いました(雑誌論文、学会発表、)。

(2) 下記の研究の結果、海外の研究論文(学会大会で発表された予稿論文を含む)には MISQ等の基幹誌に参照が集中していることが分かりました。しかし他方、その他の参照先としてはIS学に限らず、研究者たちは多様な対象についての参照をしていることが判明しました。社会や実務界での情報システム普及(即ち、高度情報化)に伴い、IS学における研究対象も拡大し、参照学問分野や参照学術誌の範囲も心理学・マーケティング・経済学・社会学・社会心理学等に拡大する傾向があります。特に近年では、医療情報分野のIS研究が急速に進展しつつあり、この結果、医療分野の研究成果を参照するIS研究が急速に増加する傾向があります(学会発表、)。

(3) 本プロジェクトでは、上記の他、参照分析の関連テーマである自己参照分析(学会発表)や論文共著分析(学会発表)についての研究発表も行いました。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

佐藤修、決定科学分野の教育キーワード分析、日本情報経営学会誌、査読なし、vol.36、no.2、2015、pp.43-50.

佐藤修、情報システム学の参照学術領域-JAIS と JIM を題材に、-商学論叢、中央大学商学研究会、遠山暁教授古希記念論文集、査読なし、57 巻 5-6 号、2016、pp.159-209.

〔学会発表〕(計 11 件)

佐藤修、質的研究と量的研究-MIS Quarterly における研究方法の一考察-、日本情報経営学会第 69 回全国大会、2014

佐藤修、学術誌の自己参照分析-日本情報経営学会誌を例として-、日本情報経営学会第 70 回全国大会、2015.

佐藤修、学会誌の参照分析：本学会アイデンティティに関する一考察、日本情報経営学会北海道支部研究会、2015.

佐藤修、国際情報経営学会誌 JAIS の参照動向、日本情報経営学会第 71 回全国大会、2015.

佐藤修、JAIS における Sens-8 の参照動向、日本情報経営学会第 73 回全国大会、2016.

佐藤修、JAIS における IS 参照第 3 層、日本情報経営学会第 74 回全国大会、2017

佐藤修、AMCIS における医療情報研究の動向、日本情報経営学会第 75 回全国大会、2017

佐藤修、情報経営学における医療情報研究の現状、日本情報経営学会第 76 回全国大会、2018

佐藤修、決定科学誌のキーワード分析、経営情報学会 2018 年秋季全国研究発表大会、2018

佐藤修、日本情報経営学会誌の論文共著傾向、日本情報経営学会第 77 回全国大会、2018

Osam Sato and Yoshiki Matsui, Information Systems Research Trend in Decision Sciences Journal, 49th Annual Meeting of the Decision Sciences Institute, 2018.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：松井美樹

ローマ字氏名：Yoshiki Matsui

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。